愛媛県　西予市　移住ガイドブック

ここでかなうくらし

Seiyo Lifestyle Guidebook

SEIYO

海抜 0m から約 1400m にまで広がる西予市。
変化に富んだ豊かな大地は多様な文化や産業、特産品を産み、
ここに暮らす人々によって大切に守られています。

Contents

西予での暮らし

仲間で取り組む笑顔あふれる農業 …… 4
天晴農園　片岡 正嘉さん、上甲 信輔さん

大人も子どもも地域みんなで育ち合う町 …… 6
二宮 祥子さん

自然の巡りの中でつくる暮らし …… 8
おめぐり庵　ベンさん、昌美さん

西予で叶える自分らしい暮らし …… 10
藤川 晃徳さん

地域おこし協力隊

西予市の地域おこし協力隊 …… 12

田舎暮らしで得た自分の空間で
“つくりたい” を叶えていく …… 13
久場 勝弘さん

失敗できる環境が地域おこし協力隊
トライ＆エラーを乗り越え目指す夢 …… 14
吉岡 大雅さん

「人が集まり繋がりができていくのが嬉しい」
功刀さんがつくるあたたかい空間 …… 15
功刀 麻由季さん

あなたの叶えたい暮らし

Seiyo City MAP …… 16
あなたの叶えたい暮らし NOTE …… 18
移住体験プログラム・地域交流イベント …… 22
うれしい移住支援制度 …… 23

ここで かなう くらし

海から山まで、本州まるごとの
気候や風土や食べものが詰まった
自然豊かな魅力あふれるまち、西予市。

みかんに染まった段々畑と
穏やかな海辺を見渡す暮らし、
伝統的な町並みの中の暮らし、
美しい田園に囲まれた暮らし、
緑豊かな里山の暮らし——
海・里・山がちょうどよく近くに
感じられる場所。

人とのつながりを大切にする、
面倒見がよくて、人懐こい人に
来たら必ず会えるはず。

四季の移り変わりが日常に感じられる
暮らしと、ここで出会う素朴な人たち
との出会いに
「なんかいいかも、西予市。」
そう思ってもらえたら嬉しいです。

このガイドブックといっしょに
「こんな暮らしがしたかった」
「こんなことに挑戦してみたい」
ここで叶えるあなたの暮らしを
思い描いてみてください。

これからお届けする、せいよで暮らす
人々のストーリーを通して
あなたらしい理想の暮らしへ
一歩踏み出すきっかけになれば と
想いを込めたガイドブックです。

仲間で取り組む笑顔あふれる農業

じょうこう しんすけ　　かたおか まさよし
上甲 信輔さん / 片岡 正嘉さん

出身地
愛媛県西予市

仕事・活動
みかん農家

〈天晴農園〉2020年に西予市明浜町にて4人の若手みかん農家で結成されたグループ。笑顔になれる柑橘を全国の食卓へ届けるべく、メンバーを増やしながら活動している。天晴農園が栽培するみかんの美味しさと、和気あいあいと栽培を楽しむ個性豊かな様子で、多くの方から“あっぱれ”と言ってもらえるような農業を目指す。

Instagram @apparenouen

天晴農園が発信するSNSやイベントにはみんなの笑顔が溢れている。

「明浜（あけはま）みかんを後世に残したい」

「楽しい農業で明浜町のみかん農家を盛り上げたい」

「若者が帰って来やすい場所を作り、地域の活性化に繋げたい」

そんな想いで繋がる個性豊かなメンバー。

今回はその中の二人、上甲 信輔さんと片岡 正嘉さんに、みかん農家の仕事や日々の暮らしについてお話を伺った。

現在のメンバーは5人（令和5年1月時点）。郷土料理・収穫体験等が楽しめる「天晴フェス」の開催や、子供向けイベント他、地域を盛り上げる活動も積極的に行っている。

県外からUターンしてみかん農家になった二人

家を建てる仕事がしたいと大阪の建築の専門学校に進み、兵庫の建材系工場に勤務していた上甲さん。最初はみかん農家を継ぐ気は全くなかったそうだが、結婚を機にいずれは実家に帰って継ぐことを考えた。

小さい頃から動物に触れあう機会が多かった片岡さんは動物関係の専門学校に進み、福岡のペットショップに勤務していた。だが、小学校低学年の頃の「みかん農家を継ぐ」という祖父との約束が記憶にあり、習えるうちにとUターンを決めた。

みかん農家の1日

朝6時半に起床、7時半頃に子どもを見送り、その日の作業の段取りをして昼まで仕事。昼食を取ったら夕方まで午後の仕事をする。上甲「（休みの日も）気まぐれで。やらないけん仕事はやるんですけど、それ以外は結構自由に休んだり」みかん農家が忙しい時期は10月終わり頃から12月いっぱいまで。この間は毎日休みなく収穫が続き、それが明けたら少し落ち着く。「正月休むために頑張る」と片岡さん。休みの日は二人とも家族と過ごす。仕事のポイントを押さえておけば、融通が利き時間に縛られないのがみかん農家のいいところ。一方、日々の仕事はやはり体力を必要とする。でも「体を動かして汗をかくことはリズム的によい」と片岡さん。事業として成り立たせるには、知識など多くを自分で吸収し自分でやっていくことも大切だ。上甲さんは「時間に縛られないんで、気楽にのんびり仕事ができるようになった。気持ちも楽に働いている感じはある」と話す。片岡さんも同じだそうだが、「やらないといけない」という責任感はずごく増したそう。二人ともUターンしてからの働き方の方が合っているのだそうだ。

天晴農園

天晴農園は子供向けのイベントや天晴フェス等の地域活動も行っており、地域との連携や明浜の宣伝などに繋がっている。チームとしての活動は楽しく、息抜きにもなっていると二人は話す。2022年には天晴農園のゲストハウス「Orange House10」を立ち上げた。星が見え、海のそばを散歩できる素敵なゲストハウスだ。きっかけは「日本の農業を勉強しているブータンの子供たちが来た時に、古い家しかなくすごく不便な思いをさせてしまった。次に来てくれる時にはちゃんとしたところに住まわせてあげたい」という想いから。「農業アルバイターや収穫体験の人にも安心して来てもらえたら」他にも帰省やお墓参りで帰ってくる人、お遍路回りの人、ワーキングスペースとして利用したい人などに人気だ。

後継者が帰りやすい場所づくり

片岡「天晴農園で活動しているのは『後継者が帰りやすい場所づくり』というのが僕の中では一番かなと思っているので、そこを発信していきたい。（後継者が）帰ってきたときにお手本となる農家になってたいなっていうのがすごいあって、指導というか。そうなれるように今頑張ってます。」

移住や就農に興味がある方は、まずは市や自治体がやっている就農体験がおすすめ。片岡「後継者不足ですし、ぜひ一緒にやりたいですね。」

自由だけど強く責任を持ち、そして楽しく。「みかんを食べてもらっておいしいって言ってもらったときは、やっぱりうれしい。」そんな天晴農園の面々が育てるみかんは、明浜の太陽のように明るく幸せな味がする。

Orange House10（オレンジハウス テン）
電話：0894-89-4020
住所：西予市明浜町俵津3-155
HP https://www.orange-house10.com/
1棟貸し有。最大9人。駐車場・Wi-Fi有。

西予での暮らし 〈子育て〉

大人も子どもも地域みんなで育ち合う町

にのみや しょうこ
二宮 祥子さん

出身地
愛媛県西予市

仕事・活動
かりとりもさくの会 地域任用職員

西予市明浜町出身。大学進学で松山に出た後、平日は明浜、休日は松山という2拠点生活を1年程したのち、実家の真珠養殖を手伝いに明浜へ戻る。現在は結婚し2児の母。地域づくり組織「かりとりもさくの会」の事務局として勤める他、地元の一次産業を盛り上げようと夫婦で通販サイト「浜のイザカヤ」を運営。かりとりもさくの会の活動の一つ「のびのびプラタナスの会」という子育てサークルの立ち上げと代表も務める。

かりとりもさくの会 https://karitorimosaku.jp/

明浜町は国の重要文化的景観に選定されたみかんの段々畑が広がり、海も近く漁業も盛んで山と海の恵を感じられる地域。

二宮 祥子さんは明浜にある真珠養殖業を行う家庭に生まれた。

幼い頃は忙しい両親の代わりに親戚のおばちゃんにたらい回しにみてもらうなど、地域で育てられた感覚があるそう。

地域と子どものつながりは自身の子育てを通しても感じている。

地域に見守られ育つ子どもたち

地域には、近所を散歩しているおっちゃんが「学校連れてくぞ〜っ」と声をかけてくれたり、子供たちを集めて体育館を開けてくれるお父さんがいたりするそうだ。祥子さんが明浜出身だからできる子育てなのかと質問するとそんなこともないようで「ここに来る移住者もいい意味で図々しい（笑）すごい打ち解けるのが早いんですよ。人懐っこいっていうか。」移住した家族の子どもたちも地域のいろいろな方々と関わり合い育っている。

明浜町の狩江（かりえ）地区では、地域住民が全員参加するお祭りや盆踊りがある。正月よりもこのお祭りの時期に戻ってくる地元出身の人もいるくらいだ。そんな昔ながらの行事を大切にするからこそ地域がまとまると感じているそう。お祭りや日々の関わりの中で、子どもの顔を見れば誰の子ども・孫なのか分かる。それが分からないと子どもを預けにくいし預かりにくいが、この地域では顔が分かるから安心して関われる。そんな環境だからこそ地域で子どもを育てることができるのだ。

みんなで集まり子育てのことも地域のこともおしゃべりできる場所を

祥子さんはお腹の中に第一子がいる頃、子育てサークルを立ち上げた。きっかけは祥子さんの出身校でもある狩江小学校が閉校になったこと。閉校後の校舎の活用方法について「子どもがもう一度遊べるようなスペースをつくってほしい」と地域の声が集まった。当時子育ての悩みを共有できるような場や児童館がなく子どもが遊べるスペースがなかった。そこで祥子さんに子育てサークルをしないかと声がかかり、妊娠中ではあるが自分もゆくゆくはお世話になるだろうと校舎を拠点として「のびのびプラタナスの会」を立ち上げた。

「子育ての最初の頃は仕事から一線離れるとちょっと社会から外れたような感じがして寂しかった。でもそれよりも違う土地に来たお母さん達は子育て中社会から離脱するし、ママ友もいない状況でストレスを抱えて寂しい思いをすると思う。でももうその心配がこの地域にはない。引っ越してきたらすぐにサークルへの勧誘をするし（笑）誰かが誰かを誘ってくれる。みんなで集まって子育てのことや地域のことも喋る。するとお母さんが孤立しない。」

新しい移住者の人を見つけると、地域の人たちが「今晩来い、今晩来い（夜ご飯食べに来な）」とウェルカムなんだとか。そしてそっとしてほしい方はそっとしておく。そんな関わり方を祥子さん自身も行なっている。

また、狩江ではケラケラ・じゃらじゃらしている人が多いそう。「じゃらじゃら」とは方言で、冗談を言ってみたり、あまり深く考えず、人は人・自分は自分と考える気さくな人のことをいう。

「じゃらじゃらいう人に囲まれるとお母さん達もだんだん明るくじゃらじゃらした人になるんかもしれん（笑）」

明浜に移住する人は、田舎ならではの生活の不便さや、人との距離感に覚悟を持って来る人が多いと感じているそう。

「いざ移住してみると、案外移住者も地域に多く、陰湿的なこともないし意外と悪くないなって思ってもらえているんじゃないかな」と話す。子どもたちの習い事なども増えてきている。

その他にも祥子さんは令和3年から西予市全体の子育てサークルも始めている。西予市の様々な地域の人たちが交われることを考えながら移住者のお母さんと共に活動している。

「移住者にとって地域の隔てが一番理解しにくいところだったりするので、隔てをなくすのが移住者のためなんですよね。」

祥子さんの持ち前の明るさとネットワークで、開けた子育てや暮らしが実現していっているように感じた。

「どんだけSNSで宣伝しても、来てもらって、人に触れてもらうのがここは一番。それ以上のことはないと思う。どんなとこなんやろかなって思うんやったら、とりあえず来てって言いたい。来たら納得するけん。」

子育てサークル「のびのびプラタナスの会」にて
絵本の読み聞かせの様子

西予での暮らし〈住まいI〉

自然の巡りの中でつくる暮らし

ベンジャミン・グロスさん / 昌美（まさみ）さん

出身地
アメリカ / 愛媛県西予市
仕事・活動
民宿経営

アメリカ出身のベンさんと西予市明浜町出身の昌美さんは京都で出会い、二人で宇和町に暮らすことに。古民家を自分たちで改装し民宿「おめぐり庵」を営む。ベンさんは古武術を習得しており、神伝武術道場で武術を教えたり氣功整体施術も行っている。長期で宿泊するお客さんは食事の準備や農作業、建築作業などを一緒に体験し「自然のサイクルの中で暮らす生き方」に触れることができる。

宇和に佇む民宿「おめぐり庵」。この民宿はベンさんと昌美さんの手で丁寧につくられ営まれている。日々やることは季節や天気に合わせ、その日ごとで違う。

二人の活動は多岐に渡るが、全て元々ある自然のものを使って作り循環していくのが基本だ。

建築では桧（ヒノキ）を切り出し、茅を刈り茅葺（かやぶき）をし、土を練り発酵土にして土壁を作る。農作では土作りに落ち葉や米ぬか、籾殻で作った燻炭（くんたん）などを用いる。

民宿の改装やかまど付きのキッチン棟、武術ができる道場など次々と建設を進めている二人。道場（写真右）は茅葺の屋根にする計画。

森づくりでは桧を切り出した後の森に、元々森にあった落葉樹や広葉樹を植樹する。多種類の木があり動物たちが食べる実がある本来の健康な森の復活を目指している。二人にとって「仕事」と「暮らし」は切り離されたものではない。

「私たちの目指しているものが民宿に付加価値を付けたり、面白いと思って民宿に来てくれる。そういう風に繋がっているんです。」

「こういう暮らしがしたい」という想いが導いた出会い

西予市に暮らすことになったのは今の家との出会いがきっかけだという。

昌美「『こういう暮らしがしたい』というイメージがあるんです。縁側や庭がある。尺八や三線といった楽器が弾ける。犬が飼える。太陽が入って、農作物を日干しして…。この家に入ってここだなって決めて。」

最初は西予市の空き家情報を市のHPで見ていたという昌美さん。

不動産屋が持つ他の物件にも広げて探していたところ「ジャングルみたいな、森の中に屋根だけ見えているような家」を発見。自然がいっぱいの環境が良かった二人は、思い描いていた暮らしにぴったりだと決断したそう。次々と本格的な改装・建設を手がけているベンさんだが、大工仕事の技術はここに引っ越してから身につけたという。

ベン「やればできるようになる。人に頼んでやると、いつまでもできないけど、一つの棚を作って、それが繋がってもっと大きく、それが小屋になってそれが家になって…ていう感じ。」

また、昔ながらの大工さんと一緒に作業し「手でやる技術」を勉強していった。

「西予市は特に、昔ながらの職人さんたちの技術っていうのがまだまだ生きている所だから。今、聞いとかないともったいないですよ。」

移住の際や日々の暮らし中で、助けてくれる人や頼りにしている人は「挙げていくとキリがないくらいいる」という。その中でも特に職人さんが多いそう。

「私たちのやってることを『面白い』と思ってくれる。懐かしさもあるかも。昔すごく大事だった木や石。その人たちはその価値をまだまだ知っている。それを使いたいと言うと『ひと肌脱いでやるか』っていう人たちが多くて。」心の中に余裕を持っている地元の人たちが二人に寄り添う。

暮らし全部がつながった

ここでの暮らしで叶ったことの一つは、自分たちが食べるものを自分たちで作れるようになったことだという。

昌美「全部が繋がりましたよね。食べ物を作り出す、食べる、それを売る、民宿のような形で人にシェアできる。全てが自分たちの中で繋がったんです。」

ベン「またお客様もそれを手伝うというね。最終的には私たちが座って、お客さんがやって、うちが食べるだけになるというのが夢。」

二人が感じる移住や田舎暮らしのポイントは「やる気がなければ何も始まらない。やっぱり自分がやらないけん。やればなんぼでも広がるけど。他の人にやってもらうまで待つんだったら（求める場所は）田舎ではないよね。」

昌美「とにかく自分の〝暮らし〟のイメージを持つこと。それを少しでもクリアにしておくと、家探しも場所探しも選びやすいかなと思います。」

自家栽培のお米や旬のお野菜をふんだんに使った菜食玄米（ビーガン）のお食事がいただける。
おめぐり庵 HP　http://omegurl.com/

西予での暮らし〈住まいⅡ〉

西予で叶える自分らしい暮らし

ふじかわ あきのり
藤川 晃徳さん

出身地
愛媛県西予市

仕事・活動
イラストレーター

西予市宇和町出身。30歳まで地元の飲食業などに勤める。その後松山市へ移り、絵の創作活動をしながら生活した後、西予市へ戻る。戻ってからも創作活動を続け、個展を開いたり、企業からの依頼で絵を書くなど活動。宇和町の米博物館敷地内にあるカフェで店長として経験を積み、現在古民家の改装を行いギャラリーと喫茶の場をつくろうと準備中。

宇和町出身の藤川 晃徳さんは30歳まで地元で過ごしていたが、やりたいことがたくさんある中、挫折することもあり「新しく気分を変えよう」と松山市へ。

松山へ移り住んだタイミングで〝挑戦してみたらいいんじゃない〟と周囲から後押しされ絵を描く活動を始めた。

幼い頃から絵を描くのが好きだった晃徳さん。今思うと、もっと早く始めればと思うほど絵描きの活動が楽しいという。

自分らしく過ごせる時間を求め西予市に戻り、ギャラリーと喫茶の場づくりに取り組む晃徳さんにお話を伺った。

妻の未知さん（愛媛県喜多郡内子町出身、前住所：広島県）

心地よい距離感や時間の使い方を

西予市の中でも、昔ならではの田舎の風景や海が見える景色が好きだという晃徳さん。田舎暮らしでは近所付き合いを気にする方もいると思うが、晃徳さんは自分の時間とのバランスを上手に保てたらと話す。

「街（松山）にいるときの方が近所付き合いは無いし、割と一人の時間が多かったはずなんです。でも街にいると夜遅くまで仕事できる場所もあるので無理に仕事を入れてしまったりと、割としんどい思いをしました。」

自分の生活リズムや収入のバランスを考えて、どちらで働いても収入は変わらないだろうと地元西予市に戻ることを決めた。

自分達も手を動かしながらの改修

いずれは自分のお店を持ちたいと前々から考えていた晃徳さん。結婚したタイミングで店づくりの勉強になる機会を探していたところ、宇和米博物館の敷地内にあるカフェの店主として働けることになった。2年ほどの経験を積み、現在は二人の自宅となる古民家の改修を行い、自宅兼ギャラリーと喫茶の場をつくろうと準備を進めている。

結婚後の住居を探す際、もともと賃貸派だった晃徳さん。だが妻の未知さんから後々お店としても使える一軒家がいいんじゃないかと提案があり、そのような用途で使えるような気に入った物件があればと探し始めた。空き家探しは難航。ネットの情報ではわからず電話を何度もかけたり街をぐるぐると歩きまわったりもした。

「Iターンの人は土地勘もないし本当にえらい（大変だ）なって思って。いろんな地域があって、その地域ごとの人との距離感もあるから、お試しで何日か過ごしたり体験した方がいいかなって思います。」

条件が合うところはとても少なかったが、写真がほとんど登録されていない一つの物件が気になっていた。現地に行くと、田んぼが広がり目の前に遮るものが何もないその物件を気に入りそこに決めた。

改修作業は地元の大工さんと進めているが、晃徳さんも未知さんも自分達でできることはやりたいという想いがあり、断熱材を入れたりと手伝えるところは教えてもらいながら自分達も手を動かしている。

住み心地と理想の家づくりのバランスを取るのは楽しくもあり難しい。昔ながらの建具など残したいものがあっても、隙間風や老朽化から泣く泣く新しいものに変えることもあった。

「自分達が魅力的に思ったり、使えるものはそのまま使いたいといった想いを意志をもって言わないといけない。替えてよかったと思う部分もあるけど、バランスがなかなか難しい。」

寒さ対策など暮らしやすさを重視したアドバイスをくれつつ、自分達の価値観も理解してくれる大工さんとの二人三脚の家づくりだ。

自分で生業をつくり自分の時間をつくる

理想の暮らしのイメージを聞いた。

「元々自分で何かしたいという想いがあったので、自分で生業（なりわい）をつくって、自由な時間に働いて、好きなところへ行ける時間づくりができればいいなっていうのは理想です。たくさん稼ぎたいとかそういう想いはないので。〝働く〟っていう感じができないですね。」と笑う。家には小さい作業部屋もつくっているといい、理想の暮らしが叶う空間になりそうだ。

自分の心地よい人との関わり方や時間の使い方を大切にしている晃徳さん。そんな晃徳さんが作り出す空間は心地の良いものになるのだろう。開業した喫茶店に客として足を運べるようになる時がとても楽しみだ。

（写真右上）コーヒーを淹れる晃徳さん。（右下）手作りのシナモンロールが焼き上がった。

（左）作品名「lavrar」（ラブラール）

藤川 晃徳さん instagram
@akinori3_oekaki

田舎暮らしで得た自分の空間で〝つくりたい〟を叶えていく

久場 勝弘（くば かつひろ）さん（30代）

任期：R3年4月～
前居住地：兵庫県
ミッション：空き家利活用、農業、地域PR

長野県出身。大阪の大学を卒業後、神戸市役所に勤める。在職中2年間休職し青年海外協力隊としてアフリカ、カメルーンで活動。帰国後2年ほど勤めた後、市役所を退職。タイでの放浪の旅を経て宇和町石城地区の地域おこし協力隊に着任。シェアアトリエ&カフェ「のぼり坂のカルフール」運営など多岐にわたり活動中。

青年海外協力隊としてカメルーンで過ごす中、ものづくりを始め、いつか自分のアトリエを持ちたいという想いが芽生えた久場さん。

神戸市役所退職後、タイでの生活を経て、国内で移住先を探す中、西予市に住む知人から「農業に興味ない？」と誘われ宇和町を訪れた。そこで古民家と地域おこし協力隊という仕事を紹介された。

古民家を訪れた際、庭からの田園風景を見て「気持ちいいな、ここに住みたい」そう思い移住を決めた。やりたいことを次々と実現させていく久場さん。協力隊着任後に始めたDIYスキルはみるみる向上し、自宅の一部を改装して令和4年12月にシェアアトリエ&カフェ「のぼり坂のカルフール」をオープンした。

そこでは農薬に頼らず育てた野菜・米を使ったカレーやカメルーンのコーヒー、オリジナルのアフリカ布雑貨が楽しめる。

ミッションのひとつの農業では、野菜や米作りに取り組んでいるが、今後は市内外の人も参加できる体験型のプロジェクトも増やしていこうと計画している。

「『作りたい』から『まず実行する』そうすることでイメージがどんどん形になる。自分がやりたいことが叶ってきていますね。」

アトリエはものづくりがしたい人が集まる場となったり、海外を知るきっかけになればとも話す。カメルーンで経験した言葉や文化が違う人と何かをする毎日は刺激的だったといい、今後も海外の人とも一緒に事業をしたいという想いがある久場さん。

「日本で僕が培ったことを伝えながら、現地にあるもので、僕に関係している人達が稼げるようになったら嬉しい。」

将来的には、西予市と海外と神戸など3拠点以上での生活を想い描いている。人が交流できるシェアハウスやチョコレート作りもこれからの夢。

久場さんの活動の場はまだまだ広がりを見せ、西予市と他地域との繋がりの発展に期待できそうだ。

着任前は、どうやって生きていこうかと悩んでいた時期はあったという久場さん。協力隊として様々なことに挑戦してきた1年半、方向性もだいぶ固まり「なんとかやっていける」というイメージも湧いたという。

「自分の気持ちの変化で言うと不安がなくなった感じがします。野菜作りをはじめ、衣食住、自分である程度ものが作れるようになった。それって生きる力が付くっていうのかな。」

何でも自分でつくるという暮らしが生きる自信に繋がっている。

受入地域づくり団体の声

二宮 乗重さん
（石城ロマンの里 応援隊委員長）

地域づくりについていろいろなことを提案してくれている。移住促進活動や農業体験など積極的に行っており、参加者にとって良い体験になっている。情報発信源力もあり、思い付いたら行動が早く、発想力がすごい。地域の活性化に寄与してもらって嬉しい。

田舎暮らし=「自分の空間が広くなること」と表現する久場さんのアトリエは秘密基地のよう。
写真右：キッチンカーの色塗りWS。地域内外の人の参加型や他の協力隊と連携して行うプロジェクトも多数開催している。ぜひインスタをチェック **Instagram@kuba_repo**

あなたの「やってみたい」をサポートします

西予市の地域おこし協力隊

地域団体からの活動・定住支援や、隊員同士のネットワークの強さなどから、隊員が活動しやすい環境が揃っています。20代から50代、単身から子育て世帯まで、幅広い年代の隊員がそれぞれの地域で活躍しています。

西予市の協力隊の特徴

- **個人事業主型で活動自由度が高い**
  やりたいことにチャレンジできる！
- **地域づくり組織の活動が活発**
  いろいろ相談しやすい！
- **協力隊仲間、OB・OGがいっぱい**
  情報交換や合同イベントも！

県内で最多！（R5年時点）

地域おこし協力隊が活躍中！

〈活動例〉

農業（トマト、柑橘、米、野菜、椎茸、ぶどうなど）
特産品開発・販売
移住コーディネーター
デザイナー
里山カフェ
観光・地域PR
空き家活用
ゲストハウス運営　etc...

トマト栽培（協力隊OB）

特産品開発・地域PR・校舎活用など

移住コーディネーター（トークイベントの様子）

ゲストハウス+バー「ento house」

地域おこし協力隊って？

地域おこし協力隊は、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る地方公共団体の取組です。西予市での活動内容は、市内の地域づくり組織等が地域課題解決のために設定したミッションとなります。着任後は募集した各地域づくり組織等のサポートを受けながらの活動となります。あなたの能力を発揮しながら田舎暮らしをしてみませんか。

最長3年 間の活動任期中は…

家賃無料　車代無料　PC貸与

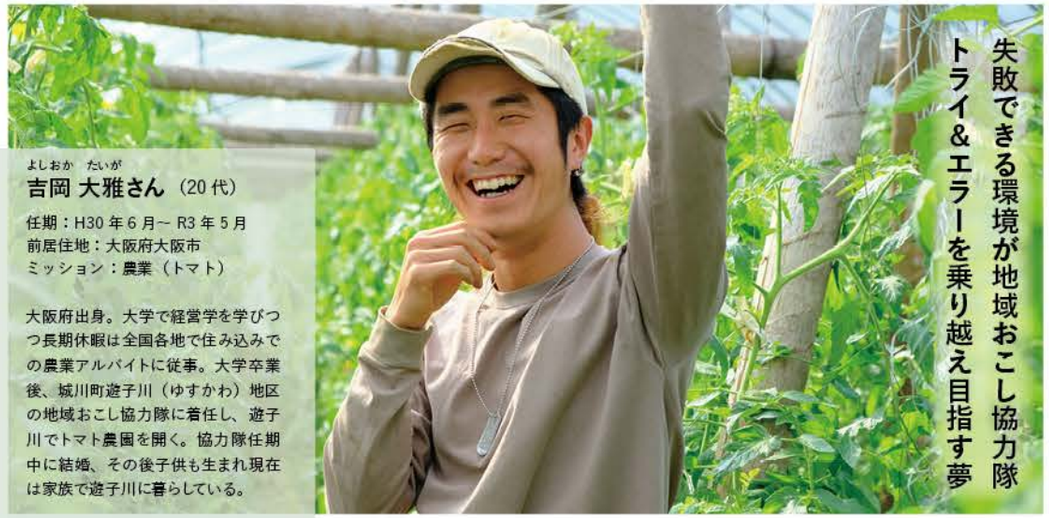
CHECK!

「お試し地域おこし協力隊」やってます！

協力隊に興味のある方は、「お試し協力隊制度」をご活用ください。滞在費用は移住センターで負担し、それぞれのミッションや地域を知ってもらいながら、地域の方や先輩移住者との交流も可能です。

詳しく見る
移住センターHP内

失敗できる環境が地域おこし協力隊トライ&エラーを乗り越え目指す夢



吉岡 大雅（よしおか たいが）さん（20代）

任期：H30年6月～R3年5月
前居住地：大阪府大阪市
ミッション：農業（トマト）

大阪府出身。大学で経営学を学びつつ長期休暇は全国各地で住み込みでの農業アルバイトに従事。大学卒業後、城川町遊子川（ゆすかわ）地区の地域おこし協力隊に着任し、遊子川でトマト農園を開く。協力隊任期中に結婚、その後子供も生まれ現在は家族で遊子川に暮らしている。

中学校の卒業文集に「農業がしたい」と書いていた。「そのときは本気でなるとは思わず、幼い子供が『プロ野球選手になりたい』と言う、それぐらいの感覚だった」と話す。

大学卒業後は絶対に農業をやると決めていたわけではなかったが、就職活動の一環で大阪の農業人フェアに参加し、いろんな自治体の話を聞いた。もう帰ろうかなと思ったときに西予市と出会った。

「学生だったからお金もない、農業の知識もない、家もない、車もない。だけど西予市の地域おこし協力隊はそれらを全部クリアできる。とりあえずやってみようと帰ってすぐ応募した。」西予市を一度も訪れたことがないまま、応募を決めた。

1年目は地元の農家さんのところを1～2週間ずつ回り研修を行った。2年目は空いていたハウスを借り、自分でトマトを一から育ててみた。たくさん失敗もして、人がやっているのを見るのと自分でやるのでは全然違うと実感したそう。でもこの経験があったからこそ、3年目、協力隊卒業を待たずして、投資をして自分のハウスを建てようと決断できた。

「失敗できる環境が地域おこし協力隊。どんなに失敗しても生活できる、チャレンジできることが大きかった」と振り返る。

吉岡さんは消防団、青年団、地域の草刈りなど地域活動も積極的に参加している。そんな吉岡さんが自分でトマトを作ってみたいと声をあげたとき、地域の方々が空きハウスや必要な道具を譲ってくれた。

「地域の人に顔を憶えてもらうことを意識して動いとったんで。回り回っていい話もろたりとかあるんで、やってよかったなと思う。」

収穫のピークを迎える夏には4時半に起床しヘッドライトを点けハウスへ向かう。午後2時～3時頃のハウスの気温は40度後半にもなるそう。そんな過酷な作業もある日々だが、農業が楽しい！と笑顔で話す吉岡さん。現在は奥さんと一緒に農業に励んでいる。

「経験とともにどんどん課題が見えてくる。一個クリアしたら、また次の課題が出てくる。一個一個クリアしていって、ちょっとずつ収穫量を増やしていって、いつか日本一になりたい」と夢を話してくれた。そして習得した技術を遊子川の人たちにも広め、地域全体の収穫量が上がったらいいと話す吉岡さんの地域からの信頼は厚い。

「とりあえず来てみたら。とりあえずやってみたら。人生賭けて来るみたいに気張る必要もない」と移住検討者へアドバイスを送る。

トマト作りを教えたり吉岡さんにとって親のような存在だという
辻本京子さん・明文さんご夫妻

京子さんはトマト農家のお母さん達が集まりできた団体「ザ・リコピンズ」代表。トマトを使った特産品開発やレストラン運営など行う。

面接での「土が好き」という一言で、農業をしたいという想いは本物だと感じた。こだわりの土作りなど、熱心に取り組んでいて言うことなしの100点満点。農業のイメージを明るく楽しいものに変えている。吉岡さん家族は地域にとって光です。

「農業は技術。とても奥深い。」と吉岡さん。西予市に移住してからの結婚。現在子育て中。
Instagram@mago_yoshioka

「人が集まり繋がりができていくのが嬉しい」功刀さんがつくるあたたかい空間

功刀 麻由季（くぬぎ まゆき）さん（30代）

任期：R3年4月～
前居住地：埼玉県
ミッション：里山カフェの運営

埼玉県川口市で生まれ育ち高校生のとき東日本大震災の災害ボランティアに参加した。大学卒業後、海外や全国各地でワーキングホリデーや農業アルバイトを経験。その後、野村町横林地区の地域おこし協力隊に着任し、里山カフェ「かり暮らし」の運営をミッションに活動している。

大学卒業後から国内外問わずいろいろな地域に身を置きながら生活をしてきた功刀さん。オーストラリアでのワーキングホリデー中、農業に関心を持ち、農繁期を中心に全国各地で農業の手伝いをするようになった。

「20代前半はいろんな場所を知りたくて動いていました。でもずっと転々としているとできないこともあるなと思って。物は最小限にしたいとか、日常の中で育んでいくものがない。20代後半になって定住してなにかひとつのことをやりたいなとか、ちょっとずつ定住のこと考え始めて。だから私の場合は（西予市に来たきっかけは）〝移住〟というか〝定住〟を考えたことですね。」

功刀さんが毎年決まって訪れる場所はそんなに多くはなかったが、愛媛県八幡浜市には農業アルバイトで柑橘シーズンに5～6年訪れており、いい場所だなと思っていた。

そこで愛媛県周辺で移住先を探し始めたときに、西予市が募集していた里山カフェの運営をミッションとした地域おこし協力隊に関心を持った。

「お店が先にあるかたちで協力隊の業務委託費や活動費を活用しながらカフェを始められるってなかなかないじゃないですか。場所があって自分のかたちがつくれると思ったらそれはすごいやりがいがある、やってみたいことだった。」

それでもすぐには決められず悩んだが、最終的にはその時の気持ちを大切に、深いことを考え過ぎずに踏み込んでみたという。

「今までの経験的にも知らなかったからできたことっていっぱいあるなと思って。良い面悪い面含めて経験になるから」。

現在お店をオープンして1年が経つ。この1年間でモーニングやランチ、マルシェやイベント出店などやりたいことをどんどんやってみたそう。

「カフェとしていろんな人に来てもらうのはもちろん、場所の活用だったり、同じ趣味の人が集まって繋がれるようなことができたらなと思って。映画観賞会やったりとか、山の上で優雅にモーニングしたいなっていう希望を叶えてみたりとか。全部、自分がやりたいことなんですけどね。」

そこに共感・応援してくれる人たちが集まりコミュニティーができて、またいろいろやれることが増えて…というふうに「かり暮らし」を拠点に輪が広がっている。

自然体な功刀さんがつくりだす空間はあたたかく、地域の人に愛されるお店に育っている。

受入地域づくり団体の声

周藤 功治 さん
（横林自治振興協議会）

3時のお茶会（※地域コミュニティ）や横林の藝術祭、お試し学童やWS、功刀さんは優しい笑顔で地域の方やお客さんと談笑していて、一緒に活動するといつも優しい気持ちになります。環境にも優しい取組を実践してくれていて、地域にとっても大きな財産になってます！

麹の料理教室や大人のための絵本会、紙漉きワークショップ、器を持参する形式のエコなマルシェなどイベント開催も　Instagram@karigurashi_cafe

卯之町の町並み

伝統的な建築様式が残る町並みで、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。江戸や明治から続く老舗旅館や造り酒屋、醤油屋、古民家を改装したお店もあり、地元住民や観光客で賑わう。

満天の星空と“わらマンモス”

宇和盆地に広がる田園風景の中に現れる、稲わらで作られた巨大なマンモス。大きさは実際のマンモスの大きさを参考に製作されている。稲刈りが終わった時期には足元まで近寄ることができる。

野村の魂「乙亥（おとい）大相撲」

幕末に起こった大火災を機に、火を鎮める祈願奉納として始まって以来絶やすことなく 170 年続く伝統行事。プロ力士とアマチュア選手との取組が行われる、全国で唯一の大会。

大野ヶ原

日本三大カルストの一つ、四国カルスト西部に位置する県下有数の酪農地帯。最も高所にあたる源氏ヶ駄馬では、大野ヶ原の風景が一望でき、まるでスイスを思わせる雄大な風景と吹き抜ける風を全身で感じられる。搾りたての牛乳やソフトクリームなどの乳製品を楽しめるお店や動物と触れ合える牧場もある。

総人口：約 35,000 人（2023 年現在）
総面積：514.34㎢

Seiyo City MAP

西予市は海抜 0m の臨海部から1,400m の山間部まで変化に富んだ地形を有し、市内全域が「四国西予ジオパーク」として認定されています。美しく豊かな自然環境、その地で息づいてきた歴史と伝統文化を誇るまちです。

小学校・中学校・高校
図書館・分館
ゲストハウス・宿泊施設
総合病院

須崎観音の海と夕日

三瓶町北部の山並みが、観音様が仰向けに寝ているように見えることから、寝観音と呼ばれている。黒瀬川構造帯に属する約 4 億年前の地層を間近に観察できる。

みかんの段々畑とリアス海岸が広がる明浜

宇和海を望む広大な段々畑は、国指定の重要文化的景観にも指定されている。石灰岩の白い石段と色づいたみかん、青い海と空のコントラストが美しい。

[主な産業] 農林水産業 [特産品] 柑橘類、魚介類、米、ブドウ、栗、乳製品、牛豚肉及び加工品 [教育・保育] 保育所 13、認定こども園 4、幼稚園 3、小学校 12、中学校 5、高等学校 3（うち分校 1）[医療機関] 総合病院 2、診療所 31、歯科診療所 18、介護施設 31

意外と近い !?

access

東京	羽田空港から約 1 時間 20 分	松山市 JR 松山駅 松山 IC	約 1 時間	西予市 JR 卯之町駅 西予宇和 IC
大阪	伊丹空港から約 50 分		約 1 時間	
	電車で約 5 時間 30 分			
	車で約 5 時間			

堂の坂の棚田

田畑を囲む石積みと美しい田園が広がり「日本の棚田百選」と「にほんの里百選」に選ばれている。新緑の季節には若苗と水面のコントラストが美しく、秋には稲穂が黄金色に色づく。

城川町窪野の八つ鹿踊り

窪野の八つ鹿踊りは、三滝神社の大祭に奉納されてきたものである。国選択の無形民俗文化財。哀調を帯びた旋律とそれをきざむ小さな太鼓の音が谷間にこだまし、素朴な中にも優雅な趣を感じる。

住まい

叶えたい条件によってお家探しの方法や内容も変わってきます。
移住後の生活でやりたいことを含め「こんなお家が良い」という
想いを書いてみましょう。

keyword

- ☐ 賃貸　☐ マイホーム　☐ 古民家　☐ DIY
- ☐ リフォーム・リノベーション　☐ 庭付き　☐ 家庭菜園がしたい
- ☐ ペットと暮らせる　☐ 庭でバーベキューや焚き火がしたい　etc...

☐

☐

☐

☐

☐

CHECK!

賃貸物件…物件数は市内中心部が
多く海側や山間部は少ない。

まずは賃貸物件に住みながら、
理想の場所や空き家探しをする方もいます。

空き家…空き家バンクや
西予市移住ポータルサイトをチェック

at home　HOME'S　西予市移住ポータルサイト

市営住宅

戸建て住宅なども整備されております
市役所建設課にお問合わせください
0894-62-6410

リフォームに活用できる補助金について

空き家改修をどう進めるのが良いのかは、
移住の時期や家の状態、修繕内容などに
よって違ってきます。補助制度については
移住センターにご相談ください。

仕事・働き方

移住後どんな時間を過ごすかに大きく影響する「仕事」。
やりたいことに時間を使うためにも職種や仕事内容はもちろん
働き方、休日の量や時間配分などについても書いてみましょう。

keyword

- ☐ いろんな仕事がしたい（パラレルワーク）　☐ フリーランス
- ☐ 休日の数　☐ 働く時間を自分で決める　☐ 自分のお店を持ちたい
- ☐ 家族との時間　☐ 兼業農家・半農半X　☐ 夫婦や家族で一緒に働く　etc...

☐

☐

☐

☐

☐

CHECK!

今までの仕事やスキルを活かすなら ...

考えてみよう　2拠点　通勤　起業　リモート

西予市や周辺の企業で仕事探し

愛媛県の公式求人・移住総合情報サイト「あのこの愛媛」

ハローワーク
西予市役所横、
JR 卯之町駅前複合施設
「ゆるりあん」内

地域おこし協力隊

→詳しくは P.12 ～紹介しています

就農に興味がある

柑橘農業体験&研修制度あり→ P.22 へ

〈就農について相談できる場所〉

農業　…市役所　農業水産課
0894-62-6409

林業　…林業活性化センター
0894-62-6493

あなたの叶えたい暮らしNOTE

どんな暮らしがしたい?もしかしたらそれを思い描くことが新しい暮らしを考える上で
1番大切かもしれません。自ずと住む場所やどんなお家が良いか、仕事や働き方に
ついて考えがまとまってくるかも。できるだけ具体的に思い描いてみましょう。

Q. どんな時間を増やしたい？

例）のんびり自由時間 / 趣味に没頭 / 町のみんなと地域活動 /
仲間とわいわい自然の中のアクティビティ /
一人でまったり朝のコーヒータイム /
家族そろって美味しいご飯を囲む / 夢に挑戦!

Q. なぜ移住したい？

例）理想の生活のイメージがありそれを叶えたい /
働き方を変えたい / 自然の中で暮らしたい /
広いお家に住みたい / のびのびと子育てしたい

Q. 理想の移住スタイルは？

例）完全移住 / 週末移住 /2 拠点・多拠点生活 /
まずはお試しで短期間

Q. 休日にしたいことは？

例）釣り / 旅行 / ガーデニングや家庭菜園
子どもとたくさん遊ぶ / 山歩き / 地元の新鮮食材で料理

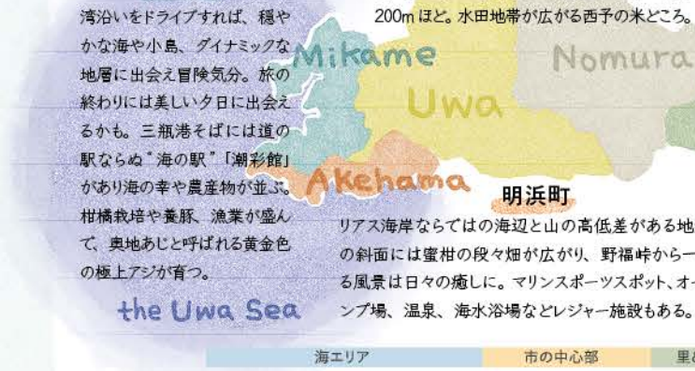
Q. その他、移住で叶えたいこと

MEMO

地域を探そう

標高差 1400m
本州の気候が
まるごと入ったまち

愛媛で 2 番目に広い面積の西予市。地域によって気候も生活環境も様々です。あなたに合う町を探してみましょう。



三瓶町

湾沿いをドライブすれば、穏やかな海や小島、ダイナミックな地層に出会え冒険気分。旅の終わりには美しい夕日に出会えるかも。三瓶港そばには道の駅ならぬ"海の駅"「潮彩館」があり海の幸や農産物が並ぶ。柑橘栽培や養豚、漁業が盛んで、奥地あじと呼ばれる黄金色の極上アジが育つ。

宇和町

市役所や駅があり、お店や学校も 5 町内で 1 番充実。八幡浜市、大洲市、宇和島市へのアクセスも良い。周囲を 400 ～ 800m の連山山脈に囲まれた山間盆地。標高は盆地部でも約 200m ほど。水田地帯が広がる西予の米どころ。

野村町

大野ヶ原を含む山エリアと、住宅も多くある里エリアまで範囲が広く、同じ野村町内でも住環境は全く違う。中心地にはスーパーやホームセンターがあり日常の買い物には困らない。「飲む村野村」と言われるくらいお酒が大好きな町。乙亥大相撲や朝霧湖マラソンでは町を挙げてのおもてなし。

城川町

山、日本らしい造りの家屋、棚田…大切に手入れし暮らしているのがわかる。古き良き農山村風景を感じながら暮らすなら城川町。遍路をもてなす休憩の場「茶堂」も多く残る。古くから"湯治の湯""美肌の湯"として親しまれてきた宝泉坊温泉がある。

明浜町

リアス海岸ならではの海辺と山の高低差がある地形。山の斜面には蜜柑の段々畑が広がり、野福峠から一望できる風景は日々の癒しに。マリンスポーツスポット、オートキャンプ場、温泉、海水浴場などレジャー施設もある。

	海エリア		市の中心部	里&山エリア	山間～山エリア
	三瓶町	明浜町	宇和町	野村町	城川町
人口	約 6,000 人	約 2,800 人	約 16,200 人	約 7,000 人	約 2,800 人
お買い物	スーパー コンビニ ドラッグストア 産直市	個人商店	スーパー コンビニ ドラッグストア 産直市	スーパー コンビニ ドラッグストア 産直市	個人商店 コンビニ△ (24H でない) 産直市
駅・交通	海の駅 路線バス	路線バス	松山自動車道 宇和 IC JR の駅…4つ 道の駅　路線バス	路線バス	道の駅 路線バス

よくある質問①

交通事情は?

基本的には自家用車での移動がメイン。路線バスやコミュニティバスもあります。電車は JR 予讃線（高松～松山～宇和島）が通っていますが市内の駅は宇和町内のみです。

よくある質問②

インターネット環境は?

市内全域に西予 CATV による光ネットワークが整備されているので、どこに住んでも良好なネット環境です◎

よくある質問③

愛媛のイメージ
＝温暖?

どんな気候?

海側のエリアは西予の中でも温暖な気候。里や山のエリアでは暖かい季節でも朝晩冷える日があり、冬場は年に数回積雪することが多いです。四季折々の自然の移り変わりを感じながらの暮らしが楽しめます。

現地に行ってみよう

地域の人々の雰囲気、景色や環境、暮らしを知るには実際に行って過ごしてみるのが一番。ゲストハウスやお試し住宅を利用すれば地域の人たちと交流する機会もぐっと増えます。

西予市移住交流体験住宅 **「きたかな」**

P16-17 のせいよ MAP で
場所が確認できます

明浜町の海からすぐ
海まで徒歩 1 分。釣りを楽しむ方も♪

地域づくり団体による様々な体験メニューあり
（要予約、要体験料）

市内の空き家や住宅探し、仕事探しなど移住の準備にお役立てください。

冷蔵庫、洗濯機、テレビ、エアコン等の家電、Wi-Fi 完備。
部屋は居間を除き 2 部屋あり、家族での利用も可能。
住所：西予市明浜町狩浜 3 番耕地 194 番地 1

市内の主なゲストハウス
&お試し住宅については
こちらから

ようこそ西予市へ
いざ移住!

「地域のコミュニティ、何かないかな?」など、移住後の相談もお気軽に移住センターへどうぞ。

地域の行事やセンター主催のイベント
「出張せいよ横丁」「なんなんマルシェ」
にもぜひ遊びに来てください。
他の移住者や地域の人との出会いがあるかも。
西予であなたらしい暮らしを楽しもう♪

西予市のことが
もっとわかる!

P.22 の移住体験プログラムや市内外で開催している交流イベントもご活用ください。

家族やパートナーに相談しよう

移住は家族の賛成と協力があってこそ
人生や暮らしをともにする人としっかりと話し合いましょう

家族やパートナーがいる場合にはあらかじめ移住について相談し話合いましょう。家族の意見を聞くことで「週末移住」「2拠点・多拠点生活」「まず単身で移住」など新しいアイデアが見えてくることもあります。

会議メモ

こんなことを共有してみよう

- ☐ なぜ移住したいと思ったのか
- ☐ 仕事、働き方
- ☐ 住居
- ☐ 暮らし
- ☐ 子育て、教育
- ☐ 老後
- ☐ 移住したらやりたいこと

家族との移住

子育て&教育についての
サポートを活用しよう

子育て支援センター
子育ての悩みを相談できる交流施設。

病児保育
就労等により家庭で保育をできない保護者に代わり病気のお子さまを一時的にお預かり。

児童館&図書館
場所は P.16 せいよ MAP で

児童館は宇和町と三瓶町に、また野村には児童館と図書館が一緒になった施設があり赤ちゃんから中高生まで遊びや勉強に利用できる。季節のイベントなど親子で楽しめる他、放課後子どもたちが安心して過ごせる居場所となっている。

結婚・出産・育児支援制度など

公営塾
高校生向け

生徒の進路支援や学習支援のための塾。
行政、地域と連携した活動も行う。

令和 5 年度
新設予定

あやぐも塾（野村）　C-LAB（三瓶）　（宇和）

情報を集めよう

知りたいこと、疑問、調べることリスト

センター HP や SNS、
西予市移住ポータルサイトも
ご活用ください

知りたいことメモの内容を元に…

相談してみよう

移住相談窓口
西予市移住定住交流センターへ

「移住を考え始めたばかりだけど何からすれば良い?」「自分のライフスタイルを変えてみたい」など
まだ具体的に移住と決めていない方もご気軽に相談してみてくださいね。

移住フェア

オンライン相談

センターでの対面相談

お問合わせ&
オンライン相談受付は
こちらから!

移住や暮らしのことへの相談はもちろん、移住者・移住検討者の方と自治体や地域の方を繋ぐ窓口でもあります。皆さんが西予市で自分らしい暮らしを実現できるようサポートいたします♪

移住コーディネーターとして
地域おこし協力隊が活躍中!

〈主な業務内容〉
- 移住相談 / コーディネート
- 移住フェアへの出展
- 交流イベント、移住体験ツアー等の企画運営
- 西予市の魅力発信
- お試し地域おこし協力隊受け入れ
- 地域おこし協力隊募集支援　他

移住体験プログラム

お試し地域おこし協力隊

募集中の地域おこし協力隊について、応募前にミスマッチを防ぐために、ミッションの体験をはじめ、その地域の雰囲気を肌で感じ、地域の方や先輩協力隊等との交流を２泊３日～４泊５日のオーダーメイドで体験できる。（滞在費・体験料等無料）

▼特産品開発ミッションの体験

移住マッチング事業

田舎暮らしを考えている都市部の方々と、そういった方との交流や移住を積極的に受け入れたい「地域」を結びつけるプログラム。年間３回にわたる地域の方々との深い交流を通して、将来的な移住や長期的な交流を考えるきっかけづくりとしておすすめ。

［写真（左上）］は石窯ピザづくり体験。他にも蕎麦打ち体験や竹細工づくり、空き家見学、収穫体験など毎年各地域の名物名産・暮らしぶりを体験できるコースが盛りだくさんのツアーです。

柑橘農業体験＆研修

柑橘の産地西予市明浜町で就農を目指す方を対象に、農業体験の受け入れを実施。農家の方々との作業や交流を通して、就農への第一歩をサポートします。５日間・10 日間コースがあり、それぞれに支援金も用意。体験を終えた就農希望者には研修制度も準備。

あけはまで農業体験しませんか事業

※他にも、愛媛県や広域連携での体験メニューやツアーもあります
※各種プログラム、イベントやフェアの予定等はぜひ左ページの「西予市移住定住交流センター HP」をチェックしてみてください！

交流イベント・移住フェア

なんなんマルシェ

愛媛県の中でも南予地方には特に多くの地域おこし協力隊が活躍しています。その活動は様々で、少しでも多くの方に協力隊の活動を知ってもらいたいと、南予の協力隊を中心としたマルシェを定期的に開催して、美味しい物や楽しい体験などを提供しています。

四国でも有数の多品目産地である西予市では協力隊も多様な農産物や加工品の生産に携わっています。西予の美味しいものを楽しまない手はない!?

出張せいよ横丁

少しでも多くの市外の方に西予市の魅力を知ってもらおうと、不定期ですが首都圏や松山市を中心に交流イベントを開催しています。田舎暮らしや移住を考えている方だけでなく、地方の方々と交流したい、地方の魅力を知りたいという方の参加をお待ちしています。

東京開催の様子。西予市の美味しい食材を使った料理と地酒で乾杯！

移住フェア・セミナー

田舎暮らしに興味のある方、将来的な移住を考えている方、地域おこし協力隊について知りたい方など、オンラインだけではなく、東京や大阪を中心に移住フェアに随時出展＆セミナーを開催していますので、ぜひご参加いただき、田舎暮らしのイメージにお役立てください。

うれしい各種支援制度の一例

住宅

移住者住宅改修支援事業
県外からの移住者が行う住宅改修等に要する経費の３分の２を補助（上限 400 万円、家財搬出 20 万円）

西予市移住交流促進支援事業
事業者や個人等が実施するゲストハウス・シェアハウス・コワーキングスペース等の整備費用に対し３分の２を補助（上限 200 万円）

仕事

地域内発型産業創出事業
一定要件を満たす事業に対し、創業支援費・雇用奨励金を交付

グリーン・ブルーツーリズム事業
農林漁業体験民宿事業、農林漁業家レストラン事業に対し助成金を交付

「あのこの愛媛」
愛媛県の求人情報と移住情報をまとめて探せて、応募や相談もできるサイト

出産育児

子ども医療費助成制度
外来・入院：原則 18 歳到達後の年度末まで無料

保育料軽減
同時入所第2子無料、第3子以降無料（副食費含む）

中学校進学準備応援金
小学６年生の児童をもつ保護者に児童１人当たり 15,000 円を支給

せいよ子育て応援 LINE
妊娠期から３歳の誕生日まで西予市からの子育て情報が LINE で届くサービス

他にも各種支援制度・暮らしのお役立ち情報があります！
まとめてわかるページはこちら▶

西予市移住定住ポータルサイト

海里山の憧れ暮らし
https://www.city.seiyo.ehime.jp/ijyu/index.html

実際に移住し活躍している方の移住体験談やイベント情報、空き家体験施設情報や仕事情報など移住に関する様々な情報を掲載しています。

この西予市移住ガイドブック「ここで かなう くらし」は移住コーディネーター（地域おこし協力隊）が中心となり制作しました！

◆ 編集後記 ◆

この冊子を手に取った皆さんが、西予市なら叶いそうな暮らしをイメージしてもらえていたら嬉しいです。そして、移住後も「移住前はこんな風に思っていたなあ」と取っておきたくなるそんな１冊になっていますように。（小林）

この冊子づくりでいろんな場所に行ってたくさんの人に会って、良いまちだなと改めて思いました。冊子を手に取っていただいた方にそれが伝わり、西予市と繋がりができたら嬉しいです。（林）

全体の編集やデザインも担当し西予市の知識が深まりました。住民の皆さんの暮らしぶりや活動を通し西予の魅力が伝わると嬉しいです。冊子にはいろいろ書き込んで自分だけの1冊にしてください♪（杉田）

移住相談窓口

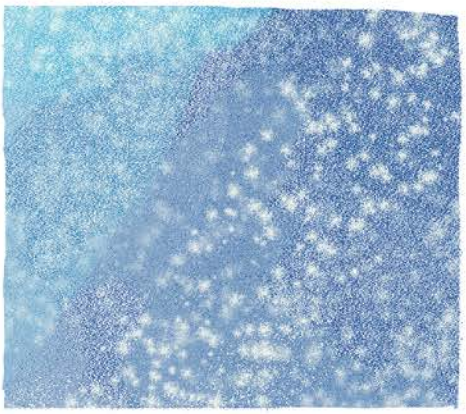
一般社団法人 西予市移住定住交流センター

〒 797-0015
西予市宇和町卯之町２丁目 24 番地（宇和米博物館内）

TEL 0894-89-2372
MAIL info@seiyo-lifestyle.or.jp

西予市移住センター HP
オンライン相談受付も
こちらから！

Facebook　Instagram　Twitter



西予市 移住ガイドブック
「ここで かなう くらし」
Seiyo Lifestyle Guidebook

(一社) 西予市移住定住交流センター
tel 0894-89-2372
〒797-0015 愛媛県西予市宇和町卯之町2-24(宇和米博物館内)

西予市役所 まちづくり推進課
tel 0894-62-6403
〒797-8501 愛媛県西予市宇和町卯之町3-434-1

2023年度発行版 [V-02]